

## 「昭和 100 年」関連施策実地レポート

このコーナーでは、内閣官房「昭和 100 年」関連施策推進室の室員が、各地で開催されている関連施策を訪問し、感想を含め皆様へご紹介します。

第 1 回の訪問先は、栃木県立美術館です。

コレクション展Ⅳ「激動の時代－昭和の絵画－」

URL：[コレクション展 激動の時代－昭和の絵画－ | 栃木県立美術館](#)

栃木県立美術館（栃木県宇都宮市桜 4-2-7）では、昭和 100 年の節目にあたり、絵画がいかにして世相を表しているか、64 年にわたる昭和という時代を絵画でたどる展覧会が開催されています。戦中・戦後の絵画が社会とどのような関係性にあったのか、大きな関心を持って観覧しました。

展示は 5 章立て。コレクション展ということであり、所蔵作品 49 点により構成されています。



展示風景

第 1 章「版画でみる戦前の風景」では、川上澄生の版画作品を展示。戦争の足音が高まる 1920 年代後半から 1930 年代前半、そのなかで生き生きと色鮮やかな人々の暮らしや街並みの様子を感じ取ることができました。

第 2 章「アジアの表象」、第 3 章「戦闘を描く」は、戦中の作品を展示。第 2 章では、支配下のアジア諸国の風俗や風景を描いた作品に作家の温もりのある眼差しが感じられ、戦時下における芸術家の矜持の一端を感じることができました。第 3 章では、軍が戦意高揚を企図したいいわゆる「戦争画」が展示されています。当館では、栃木県出身の作家の作品収集を行った結果として、多くの戦争画を収蔵されているとのこと。戦地で悲惨な状況を見ながら何を描くべきかを煩悶としながら取り組んだのではないかと、いうことでした。

第4章「復興の陰で」、第5章「繁栄の陰で」は戦後の復興・高度成長の裏にある様々な社会問題をテーマにした作品を展示。足を止め、風刺画の表現に込めた作者の意図を考察し、当時の社会問題と人々の苦悩に思いを馳せました。

全体に、作品の説明・キャプションは最小限で、時代背景を踏まえ作者の視点を鑑賞者自身を感じ取ることに委ねることを企図しているように感じられました。所蔵作品のみによる展示ですが、昭和全体をバランスよく顧みることができる重厚な構成であると感じました。

昭和元年（1926年）から起算して満100年を迎える本年、昭和に生きた作家の眼差しを通して、昭和の歴史を振り返るよい機会を得ることができました。

会期は3月22日（日）まで。企画展「僕はなに色 渡辺豊重展—いろ、かたち、ひかりの冒険」[僕はなに色 渡辺豊重展](#) も開催中です。

会期：令和8年1月10日（土）～令和8年3月22日（日）

主催：栃木県立美術館

住所：栃木県宇都宮市桜4-2-7